

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 9月号

2014年9月2日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：平川 裕太（中部徳洲会病院）

## ＜平成 26 年度第 1 回 病院医療ソーシャルワーカー研修会に参加して＞

ハートライフ病院 奥平 藤也

平成 26 年 7 月 24 日～25 日（木～金）、東京の水道橋にある全日本病院協会（以下「全日病」）にて表記の研修を受けましたので報告します。主催は全日病プライマリケア委員会で日本医療社会福祉協会（以下、日本協会）も共催に名を連ねており、昨年度 2 月に初めて開催され、今回が 2 回目です。全国から 100 人以上の参加がありましたが県内からは私と同仁病院の宇良さん、大浜第一病院の平安さんの計 3 人でした。

初日は主に座学で 2 日目は事例を用いてグループ演習（SWOT 分析）でしたが、特に初日の座学は病院経営者等から医療ソーシャルワーカーに対し、今後の活躍への大きな期待が込められていました。

神野正博氏（全日本病院学会副会長・社会医療法人董仙会（石川県七尾市）理事長）は、昨今の医療情勢の講義の中で「地域包括ケアの本質は、地域「統合」ケアである。」「地域統合ケアのガバナンス（主体的な意思決定や合意形成）の中核は MSW である。」と述べました。

藤井久丈氏（全日病プライマリケア検討委員会委員・医療法人藤聖会八尾総合病院（富山県）理事長）は、組織としては MSW に企画力を求めているとして、「もっと積極的に企画や戦略的な提案を。病院運営に患者の満足度や地域の情報のフィードバックを。」と力説。また、「今後の病院は患者さんへのアフターケアも大切」と退院後のフォローまで行き届く視点を持つことが重要と述べました。

また、全日病のご意見番で法政大学経営学部の佐野哲教授は、経営学のマーケティング理論を医療現場に置き換えてわかりやすく講義され、地域を理解し考えていくうえでのヒントを得ました。

日本協会佐原会長も「地域包括ケアの発想と実践は、そもそも MSW が担っていた部分ではないか」と提起していましたが、研修を通じて感じたことは、MSW は従来型の対人援助一辺倒でいくのであれば先はない。MSW は病院全体を知り、地域の状況にも精通しているという利点、また MSW が本来有する個人の尊重という点を生かし、様々な活動に注力してほしい、というメッセージを送られているように感じました。

### CONTENTS

平成 26 年度 第 1 回病院医療ソーシャルワーカー研修会報告	1
8 月定例会報告	2
新会員紹介	3
めだかの学校参加報告	3
はいさいワーク	4
理事会議事録	4～6
定例会、めだかの学校等のお知らせ	6～7
コラム・編集後記	7

## 8月定例会報告

中部徳洲会病院 西銘 知恵

今月の定例会は、8月17日（日）にコンベンションセンターで行われた、『第4回県民健康フェア～ようきで元気なところとからだ～』へ参加しました。

会場ではステージ・ブース・屋外イベントなどがあり、医療ソーシャルワーカー協会はブースを設けて、その中で医療ソーシャルワーカーの職能紹介、医療福祉相談、社会福祉クイズなどを行いました。

国立がん研究センターから発行されている、各種がんについての資料や、成年後見、DVなどについての資料を配布したり、クイズの中ではMSWの仕事とは何か、身障手帳、介護保険、医療費、生活保護についての質問が記載されており、ソーシャルワーカーが幅広い分野で相談に乗る事が可能という事を理解してもらえたのではないかと感じました。

その他のブースでは、看護協会でアルコール問題簡易検査や妊婦体験があり、アルコール問題簡易検査では、スクリーニングを取り、点数によって危険度がわかるものになっていました。その際、休肝日は週2日以上設けた方がよい、少しお酒を控えるだけで、体重が減り、肝機能が改善、血圧が下がるなどいい事が多いとのお話がありました。

お酒好きの方はぜひ参考にしてみてください。

話が逸れてしまいましたが、薬剤師会では健康チェックとお薬相談会、鍼灸協会では鍼灸体験を行っていました。その他の団体も様々な体験や展示を行っており、他職種について理解を深め、健康に対して考える機会となりました。来客していた方々も楽しみながら健康について学んでいるように感じました。

今回で4回目の開催となっていますが、もっと多くの方が参加し、健康について考えて頂ければと思います。

今回ブースの展示作業や資料の準備など、お忙しい業務の中で事務局の方々は大変だったと思います。ありがとうございました。

今回参加できなかった、ソーシャルワーカーの方々も来年の開催があれば、ぜひ参加してもらえればと思います。



・看護部にて、妊婦体験



・ワーカー協会のブース

## 新会員紹介

初めまして。私は4月から沖縄協同病院の地域連携室で相談員をしています、**玉那覇 夏汀**（なつみ）です。

今年の3月に大学を卒業した、社会人としても相談員としても「新人」でございます。

入職してから一日一日がとても速く、気が付けば4ヶ月が過ぎていました。わからない用語や制度も多く、悩んでは立ち止まることも多々あります。そんな時には、周りの先輩相談員に丁寧に指導をいただいています。

相談員としての振る舞いや知識もまだまだですが、先輩相談員に教えてもらいながら、そして様々な勉強会や講習会に参加し、成長していきたいと思っております。皆さん、よろしくお願い致します。



## めだかの学校参加報告

ちゅうざん病院 島袋洋平

8月12日（火）19時より中部徳洲会病院にて開催された「めだかの学校」に参加しました。今回は、地域包括ケア病棟、療養病棟について中部協同病院の新垣哲治さんに講義をしていただきました。

地域包括ケア病棟の役割として、急性病院からの患者の受け入れ、自宅や老健の患者の受け入れし、在宅への復帰を支援していくとのことでした。

施設基準に関しても「在宅療養支援病院」「在宅療養後方支援病院として3件以上の在宅患者の受入実績」「二次救急医療施設」「救急告示病院」のいずれかを満たすことが求められるほか、リハビリを1日平均2単位以上提供するためセラピストの人材確保など国が今後、地域包括ケア病棟を推奨していく流れではあるが、施設基準を満たすハードルは高いと感じました。

また、療養病棟でも在宅復帰機能強化加算が新設され、在宅への流れをつくるのが狙いだと感じ、MSWの役割が今後重要になってくるともとても充実した勉強会となりました。

今回、学んだことを連携業務に活かしていきたいと思いました。

社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院 医療ソーシャルワーカー

採用人数：1名

業務内容：医療ソーシャルワーカーとしての職務全般（法人内にて移動あり）

雇用形態：常勤（正職員）

勤務時間：月～金 8：30～17：30 土 8：30～12：30（交代勤務） 週休2日  
日・祝日・年末年始は休日

応募資格：社会福祉士の国家資格を保持していること

採用時期：平成27年1月～3月頃を予定

給与：当法人規定による

賞与あり（前年度実績 4.3 ヶ月）

資格手当・通勤手当あり

年金・保険：厚生年金・協会けんぽ・雇用保険・労災保険

選考方法：書類選考及び面接

問い合わせ先：ハートライフ病院 TEL098-895-3255

地域医療連携室 医療ソーシャルワーカー 望月・奥平



## 平成26年8月運営委員会議事録

参加者（敬称略）：樋口、島袋、又吉（司会）、新垣、當銘、新城、伊禮、望月、石郷岡、奥平（書記）

### \*研修部：望月（ハートライフ病院）

■めだかの学校 9月 9日（火）19:00～20:30 場所：与那原中央病院2階会議室

講師：池間俊（与那原中央病院） 「障害年金について」

■MSW定例会 9月24日（水）13:30～16:00 場所：沖縄県医師会 3階ホール

＜老健支援相談員との合同研修会&交流会＞

- \* テーマ：「胃ろう造設の問題から高齢者の終末期を考える」
- \* 予算：老健協会と折半
- \* 8/5(火)エメロードてだこ苑にて老健協会と打合せ済、当協会から望月、香村、池間3氏参加。
- \* 病院機能別に発言者をたてる（急性期：望月（ハートライフ病院）、回復期：安慶名（大浜第二病院）、療養：比嘉（北上中央病院）、老健：川満ゆかり氏（友愛園）
- \* グループワークのテーマ：各施設のバリアと明日から取り組めそうなことなど
- \* グループワークのファシリテーター：打ち合わせメンバー+αを予定。
- \* 打ち合わせに要した交通費について、今年度は予算化されていないが、次年度要検討。
- \* 当日のアンケートの内容検討（5段階評価）→承認。
- \* 当日の配付資料→ガイドライン、鈴木先生が医学界新聞へ投稿された原稿など、人生の最終段階における医療体制整備事業の資料など
- \* 倫理上のことを共に考える研修にできれば。

- \* 閉会の挨拶は樋口会長。開会の挨拶は、老健協会へ依頼。
- \* 新聞社等マスコミへ取材依頼する。

#### ■宿泊研修について（勇美記念財団助成）

- \* 日程：11月22日（土）、23日（日） 場所：勝山病院
- \* テーマ：本人・家族・多職種で行うカンファレンスのポイント（講義とワークショップ）  
～在宅看取りを希望する患者の退院支援～
- \* 講師：片岡靖子氏（久留米大学）。
- \* 宿泊先：リゾネックス名護予定 懇親会も近隣にて
- \* 参加費設定の検討→検討後、実施要項に盛り込む。

（H27年8月末までに完了報告書提出）

#### ■今後のMSW定例会

10月8日（水）14:00～ 場所：北中城若松病院

- \* 事例検討：鶴淵（沖縄協同病院）テーマ未定 OGSVからの担当未定
- \* 九州大会の予演会伊禮（那覇市立病院）、西田（ハートライフ病院）、めだかの放課後より1題

#### ■めだかの放課後 次回未定 9月上旬 19:00 場所：中頭病院

#### ■9月28日（日）がん相談員研修 兵庫医科大学 大松重宏先生 広報周知・参加を。

#### \*広報部

- \* 9月号の編集担当：平川氏（中部特洲会病院）
- \* ホームページのリニューアルは10月1日付けで行う。
- \* ホームページ→武田さん（とよみ生協病院）へ、研修部望月・広報部新城（小祿病院）から連絡をとる。議事録等は運営委員長が内容確認してからUPする体制にする等、取り決めをしておくこと。

#### \*社会活動部

- \* 8月17日（日）県民健康フェア スタッフ32名。次回はのぼりや法被などを。ゆるキャラなどは？→成功。菓子はほとんどなくなる。参加者は50人ぐらい。

#### \*事務局

- \* 広報紙の発送の遅れの懸念→原稿締め切りが運営委員会の翌日とされているため、変更→原則第3月曜日へ変更。今後は9月17日（水）、10月20日（月）、11月17日、12月15日、1月19日、2月16日、3月16日。
- \* 平成26年度沖縄県医療福祉事業団：健康づくり運動実践活動団体助成事業助成申請→決定。30万円。医療ソーシャルワーカーの普及啓発活動事業として申請する。  
報告資料に助成団体名を入れる。
- \* 会費引き落とし8/11に終了したが、残高不足の方あり、書類不備や印鑑不適合あり、個別に連絡入れている。
- \* 小原先生との勉強会の件→めだかの放課後 11/15（土）14時～ 場所：大浜第一病院にて。  
「退院支援の自己評価マニュアル」の勉強会（中堅者向け）

### \*又吉副会長より

- \* 事務局は、運営委員会で日頃の会計報告を。各部事業は予算立てして来年度予算編成すること。

### \*会長

- \* 勇美記念財団の会計担当を決めること。口座は新規作成済み。事業団助成金の会計担当も決め、事務局長は管理業務を担えるよう役割分担を。
- \* SW4団体の公開質問状の件。SW協会から返信まだ。9月上旬にはとりまとめを行う。
- \* 県医師会は仲井真氏を推薦→県MSW協会としては特定の候補者は支持しない。
- \* マインドフルネス研修会の後援依頼あり>>>承認

\*次回理事会：9月17日（水）18：30～ 司会：當銘 書記：泰 連絡係：石郷岡

## 研修部よりお知らせ～平成26年9月～

### 定例会

日時：平成26年9月24日（水）13：30～16：00  
場所：沖縄県医師会館 3階 ホール（南風原町字新川218-9）s  
内容：介護老人保健施設支援相談員との合同研修会・交流会  
テーマ『胃瘻造設の問題から高齢者の終末期を考える』

10月予定：10月8日（水）14：00～17：00  
場所：調整中  
内容：事例検討 提供者：鶴淵太郎（沖縄協同病院）  
九州大会予演会

11月予定：11月22日（土）午後～23日（日）午前 宿泊研修  
場所：勝山病院 宿泊先：リゾネックス名護  
内容：「（仮）在宅医療に関する研修会  
～本人・家族・多職種で行うカンファレンスのポイント～」  
講師：片岡靖子氏（久留米大学文学部社会福祉学科准教授）

### めだかの放課後

日時：平成26年9月調整中 19：00～20：30  
場所：中頭病院 2階 会議室（沖縄市知花6-25-5）  
内容：①健康事業財団助成金決定にてイベント開催準備  
②社会福祉セミナー打ち合わせ



## めだかの学校

日時：平成 26 年 9 月 9 日（火） 19：00～20：30  
場所：与那原中央病院 2階第 1 会議室（字与那原 2905）  
内容：障害年金について  
講師：池間俊氏（与那原中央病院）

10 月の予定：10 月 14 日（火）：回復期リハビリ病棟における MSW の役割

## コラム ●ある日の相談室●

担当：M・K

●・・・夏は暑いよな～。病院が涼しいな～・・・

T さん（男性）は 78 歳、素朴でほほ笑みの似合う気さくな方です。

T さんとの出会いは脳梗塞を発症し治療を終え、リハビリに取り組んでいた春の陽気な頃でした。しゃべりづらさと右手足の麻痺は日を追うごとに回復がみられました。難聴が強いためか、言葉のキャッチボールが合わないことがありました。医療チームのカンファレンスでは、ふらつき歩行、不規則で低栄養な食生活、内服管理の曖昧さ、1 人暮らしの課題があったため介護施設入所の検討もされましたが、T さんに聞くと「家に帰るよ。大丈夫さ～」とのこと。私と一緒に準備しましょうと声かけすると、「世話になります。よろしく」と笑顔で返事されました。そこでまず、代行で介護申請を行い、暫定で地域包括支援センターに依頼。配食、デイサービス、ヘルパーの調整と並行して家屋訪問を行いました。ご自宅では城の主となり、流れるような動きやドヤ顔を見せました。もう何にも恐くない、レットイットゴー、ありのままの T さんでありました。服薬カレンダーなどの準備をして退院時に同行をしました。トントン拍子で援助終了、となるはずだったのですが・・・。

数週間がたった頃、地域包括支援センターから「いかない、行かない、と話している。訪問しても家にいない」との連絡がありました。当院の受診予約を確認すると、な、なっ、なんと、頭痛を主訴に週に数回も救急受診していました。医師から介入依頼があり、他の相談員も関わりました。理由を聞くと、「家は暑い。病院は涼しいし、ご飯も買える。入院できないか?」と。季節は夏に突入していて・・・、たしか自宅にクーラーはなく、扇風機のみ。設置を促すと「お金がかかるので嫌」、施設入所の提案も「行かない」と話し、T さんのクーラー通院が数週間にわたり始まりました。長い案内でやっと、近隣の居宅介護支援事業所と契約し、通所を開始しました。今も 1 人暮らしは続いているようです。

最初の支援はクーラー設置の粘り強い交渉だったのかな～。病院に代わる、憩いの場所も見つけた方がよかったかな～、と思う今日この頃です。

### ☆編集後記☆

暑い日が続いていますが、今年も残すところ四ヶ月をきり忙しくなりますが、体調に気をつけて頑張っていきましょう。

お忙しい中、原稿依頼を引き受けていただいた皆様、ありがとうございました。

